

1 日 時 平成 30 年 10 月〇日 (〇)

2 学年・組 第 1 学年〇組

3 単 元 「ひきざん (2)」

4 単元の目標

11 から 18 までの 2 位数から 1 位数を引く、繰り下がりのある減法計算について、既習の見方や考え方を基に計算の仕方を考え、減法の計算について理解を深めるとともに、減法計算が確実にできるようにする。

5 単元の評価規準

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
・既習の減法計算や数の構成を基に、繰り下がりのある 2 位数－1 位数の計算の仕方を考えようとしている。	・繰り下がりのある 2 位数－1 位数の計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて表現したり工夫したりすることができる。	・繰り下がりのある 2 位数－1 位数の計算が確実にできる。	・10 のまとまりに着目することで、繰り下がりのある 2 位数－1 位数の計算ができることを理解する。

6 単元について

本単元は、繰り上がりのあるたし算と同じように、既習の数の見方や計算の仕方を活用して、繰り下がりのある減法の計算の仕方を考えたり、計算ができるようにしたりすることをねらいとしている。児童は未習の計算の仕方を見つける際には、ものの数に着目して、既習の計算の仕方が使えるようにするとよいことにも気づくことができる。第 2 学年以降の数とその表現や数量の関係に着目し「計算の仕方を考察する」学習の進め方を学ぶ単元でもある。

本学級の児童へは、具体物やブロックを使い、その操作を通して数の概念や性質を理解するよう指導してきた。数と計算の領域では、身の回りのものを数に置き換えたり、それらを式に表したりすることのできる算数の面白さやよさを感じ取っている児童もいる。一方、数を 5 や 10 のかたまりとしてとらえたり数を分解したりして計算することが苦手だったり、問題場面を式に表し、式を読み取るとに時間がかかったりする児童もいて、それが学力差につながっている面もある。

友達への関わり方が温かく、友達と活動することが大好きという子どもたちのよいところを生かせるように、授業では、ペアやグループでの学習を取り入れている。9 月から学習の振り返りをノートに書くことを始めた。学習の感想や分かったことなどに目を向けて考えることが少しずつできるようになっている。

指導においては、既習の引き算との違いをはっきりさせた上で、「10 とあといくつ」という見方を使えば、既習のたし算とひき算の計算の仕方で答えが求められることに気づかせたい。その際には、算数ブロックなどの半具体物や図などを用いて考えたり、それらを使って言葉で説明したりする活動を重視したい。習熟の場面においては、計算カードを使った練習や計算ゲームを取り入れ、楽しみながら計算の練習に取り組ませていきたい。また、減加法と減々法の両方を扱うことで、一つの答えを

求めるのに複数の考え方があることにも気づかせ、その上で、どちらの方法で計算するかは児童自身に考えさせたい。

本時では、15と7の関係を捉えさせるために、絵、図、ブロックの操作などを必要に応じて取り入れる。さらに、ペア学習を取り入れ、言葉・絵・図・ブロックを関連付けて表現したり説明したりする機会を確保し理解を深めさせたい。

7 指導と評価の計画（全12時間 本時8/12）

		ねらい	評価の観点				
次	時		関	考	技	知	主たる評価規準（評価方法）
1	1 2	・11～18から1位数をひく、繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法（減加法）を理解する。	○	◎			【関】既習の加減計算や数の構成を基に、 $13-9$ などの計算の仕方を考えようとしている。（観察・発言） 【考】 $13-9$ などの計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて説明することができる。（ノート・発言）
2	1	・前時までの学習をふまえ、11～18から1位数（8）をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法（減加法）の理解を確実にする。				◎	【知】減数が8の場合でも、10のまとまりから1位数をひけばよいことを理解している。（ノート・発言）
	2	・前時までの学習を踏まえ、11～18から1位数（8や9）をひく繰り下がりのある減法計算で、減加法で計算するやり方の習熟を図る			◎		【技】減数が8や9の問題で減加法による計算が確実にできる。（ノート・発言）
	3	・前時までの学習を踏まえ、11～18から1位数（7）をひく繰り下がりのある減法計算で、減加法で計算するやり方の習熟を図る			◎	○	【技】減加法による計算が確実にできる。（ノート・発言） 【知】減数が5～8の場合でも、10のまとまりから1位数をひけばよいことを理解している。（ノート・発言）
3	1	・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、減数を分解して計算する方法（減々法）があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。		◎		○	【考】被減数や減数の大きさに関係なく、被減数を10のまとまりといくつに分けて計算の仕方を考え、言葉やブロック操作などによって説明している。（ノート・発言） 【知】11～18から1位数を引く繰り下がりのある減法計算は、被減数を10のまとまりといくつに分けて考えればよいことを理解している。（ノート・発言）

	2	・11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、減加法と減々法のどちらですか考えさせ、計算の仕方についての理解を深める。			◎	【知】11～18 から1位数を引く繰り下がりのある減法計算は、被減数を10のまとまりといくつに分けて考えればよいことを理解している。 (ノート・観察)
4	1	・文章題の中の数量の関係が分かり、減法を使って解決することができる。(本時)		◎		【考】数量の関係に着目し、計算の意味を考えることができる。 (発言・ノート・観察)
	2	・減法の計算能力を伸ばす。			◎	【技】11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算が確実にできる。 (ノート・観察)
	3	・ゲームをしながら11～18から				
4	1位数をひく繰り下がりのある減法計算が確実にできるようにする。					
5	1	・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。 ・減法についての理解を深める。	○		◎	【技】基本的な学習内容を身につけている。 【関】既習事項を適切に用いて、活動に取り組もうとしている。 (ノート・観察)

8 本時の目標

15と7の関係に着目して式を立て、既習事項を生かして解き方を考えることができる。

9 本時の評価

到達度	具体的評価規準	判断の目安
十分満足できる状況	○操作や言葉、図、絵などを用いて、式の意味を説明することができる。	○ $15-7$ や $8-7$ を立式し、式の意味について、筋道を立てて説明することができる。
概ね満足できる状況	○15と7の関係に着目し式を立てることができる。	○ $15-7$ や $8-7$ を既習の考え方をもとに立式することができる。
努力を要する状況の児童への手立ての例	○問題文や絵、図から、はとの「7わ」が「15わ」の中に含まれる数であることに気づかせる。 ○ブロック操作を通して既習の計算方法が使えることを理解させる。	

10 本時の学習展開

学習活動（発問・活動等）	予想される児童の反応	支援・評価【観点】（評価方法）
<p>1. 問題1を読み，題意をとらえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>はとと すすめが あわせて15わ います。そのうち はとは 7わです。 どちらが なんわ おおい でしょうか。</p> </div> <p>2. 課題をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「あわせて」とあるからたし算と思う。 ・「どちらが」とあるからひき算じゃないのかな？ ・すすめの数を出してからくらべないといけないね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに何を求めればいいのか見通しをもたせるために，すすめの数に着目させる。 ・比較する問題であることに気づかせるために問題文の「どちらが」を意識させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>めあて：ずや ブロックをつかってもんだいのときかたをかながえよう</p> </div>		
<p>3. 問題の場面をブロックや図で表す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロックをいくつ出せばいいのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を図やブロックと結びつけることで15の中に7があるという関係に気付かせる。 <p>努力を要する状況の児童への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数量の関係を視覚的にとらえさせるために，鳥の種類ごとに並び替えた場面の絵を提示する。
<p>4. すすめの数を求める式を立て，計算をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・15－7だね。 ・どちらの計算でしょうか？ ・5から7はひけないから…。 ・10のかたまりからひこうかな。 ・すすめは8わだね。 	<p>【考】15と7の関係に着目し式を立てることができる。</p> <p style="text-align: center;">（発言・ノート・観察）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック操作を通して，減法が成り立つ場面であることを理解させる。
<p>5. はととすすめの数の違いを求める式を立て，計算する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これでどちらが多いかくらべられるね。 ・どっちからひくのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容を生かすために，減加法・減々法のどちらでもよいことを伝える。

<p>6. 答えが問いに対応しているか確かめる。</p> <p>7. 振り返りを書き、学習のまとめをする。</p>	<p>・「どちらが？」とあるから、1わと答えるだけではいけない。</p> <p>・図にすると問題にない数がわかったよ。</p>	<p>・問題文をもう一度読むことで答えが問いに対応しているか検討させる。</p> <p>・数量の関係に着目することで、計算の意味を正しく考えることができたことを確認する。</p>
---	---	---

11 板書計画

①	② ずやブロックをつかって、ときかたをかんがえよう
<p>はととすずめがあわせて15わいます。 そのうち、はとは7わです。 どちらがなんわおおいでしょうか。</p>	<p>① (しき) $15 - 7$ ② (しき) $8 - 7$ ふりかえり</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ブロック</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ブロック</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ず</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ず</div> </div>
くらべる? → はと と すずめ	
(場面の絵)	<p>すずめは 8わ (こたえ) <u>どちらが</u> <u>なんわ</u> おおい すずめが 1わ おおい</p>
<p>① すずめが □わか もとめる。</p> <p>② はとと すずめのかずをくらべる。</p>	